

## 「愛されて育つ」

2017年4月11日  
学校法人 敬愛学園  
元住吉こぼと幼稚園  
園長 三宅悦子

主題 聖句

### あなたがたは神に愛されている子どもです。

(エフェソの信徒への手紙 5章 1節)

ご入園、ご進級おめでとうございます。

「幼稚園に行くんだよ。」「大きい組になるんだ。」というその事が、子ども達にとっては、誇らしい事です。子ども達は大きな期待と喜びに包まれて幼稚園に登園して来ます。是非、保護者の皆様も、そして保育者も一緒に、子ども達の誇らしさを大切にして、応援してあげましょう。

新しい一年の始めに「どんなお友達と一緒にのクラスかな」、「どんな楽しい事が待っているだろうか」と、心をドキドキさせながら、初めての場所で、初めての集団生活が始まります。「どんなお友達がいるだろうか」、「どんな先生のクラスかな」と新しい出会いへの喜びと、小さな心配が尽きないかもしれません。子ども達にとっても、保護者の皆様方にとっても、そして保育者にとってもドキドキする初めての出会いの始まりです。焦らず、ゆっくりと徐々に“初めての事”に慣れながら子ども達も、保護者の皆様も、そして、担任をする保育者も、幼稚園に通って来る事が楽しみになりますように願っています。元住吉こぼと幼稚園全体に元気な明るい声と笑顔があふれ、一人ひとりみんなの顔が輝きますようにと、職員一同祈りつつ皆様をお迎えするときをお待ちしております。

今年度の保育主題は『愛されて育つ』です。2011年の大震災の年より4年間『あふれる愛』を主題として来ました。困難の中にある方々、『日常』を奪われてしまった方々、希望が見えて来ない方々を思い、私達は身近な人々と寄り添い『あふれる愛』と一緒に包まれて、次のステップへ一歩踏み出す力となることができればと願って来ました。

一昨年度震災から4年が過ぎ、周囲の状況を見ると今度は『『平和』をつくる』ことを、心を合わせて進めて行かなければという変化の中に身を置いていると感じました。

そして2017年『『平和』をともに』から『愛されて育つ』へと引き継いで行きます。

この世に“生命”を頂いて、生まれて来てくれた子ども達のその大切な“生命”が尊ばれ、大切にされ心を掛けられ手を掛けられ寄り添われて、安心して成長し、いきいきと今を生きる力を培っていきます。今の社会の変化の只中であって、「キリスト教保育の課題は、子どもが正しく、深く愛されて、正しく深く愛する者になっていく事」が大切な事と受けとめ、今年度の主題が設定されました。保育をめぐる社会状況の変化は、保護されるべき小さな子ども達に、大きな混乱や不安をもたらせています。子どもをめぐる家庭の在り方も変化して来ています。

子どもが小さい間は、家庭を中心に子育てをしたいと願う保護者と共に幼稚園が歩み、保育をして来ました。子ども達が3歳・4歳・5歳のこの時期に、手間暇かけて子育てする事が、保護者、保育者の一番の役割と考えて、保育をして来ました。今もそのような子育ては、子ども達にとっても、大切だなと考えています。

子育ては、私ではない他者との歩みですから、自分の思い通りにならない事や、考えられない事が起こって来ます。心配が絶えず、心の痛みや葛藤を繰り返します。けれども、だからこそ子どもの成長を目の当たりにする喜びや、子どもと共に育てられた達成感を味わう事ができます。

3歳・4歳・5歳児の子育ての仕方が変わったというのではなく、保護者の置かれた状況や、女性の役割や価値観が変わって来た今、「子どもを守り育てる」ために、私達はさらに、子育てを支援する保育の場の課題に対応していく事が求められています。言いかえると、子ども達が、「愛されて守り育てられる」ギリギリのところまで来ているのではないかとさえ、思うところがあります。

子ども達が「愛されて育つ」為に、保育者も保護者も「自分は愛されて育った」と実感している事が大切です。それは特に、まず神様から愛されている事に気づく事から始まります。今年卒園された保護者の方からお手紙を頂きました。そこには、「我が子が、神様の幼稚園で育てられ、食事の時に祈り、何かあっても神様が一緒にいて下さるとつぶやき、どんなに私が励まされたことでしょう」と綴られていました。子どもの安心感が、お母様にも伝わって「愛されて育った」と実感できる言葉を記して下さいました。目には見えないけれども、神様に守られ愛されている幼稚園の陽だまりを見る思いが致しました。私たちは、神様がそこに働いていて下さる事、イエス様が、私達を支えて下さる事を信じて、「愛されて共に生き、共に育つ」事に向かって、保育者も保護者の皆様も共にこの一年の歩みを進めて参りたいと願います。

今年の主題聖句は、「**あなたがたは神に愛されている子どもです**」

(エフェソの信徒への手紙5章1節)

「愛されて育つ」という時に具体的にどのような時に「愛されている」と子ども達、私達は感じるでしょうか。

保護者が、子育てに大きな不安を感じて、孤独の中にいる時。孤立している時。言いようのない気持ちのやり場がない時。苦しさや不安のため、自らの日常生活もままならない状況の中で追い込まれ、育児放棄や虐待を繰り返してしまう事。また、子どもの成長よりも優先したい事があり、子育てに無関心で、子どもの生活リズムより、保護者の生活リズムが中心になっている事。さらに、子どもへの愛情が期待や心配とへと進み、管理、干渉、子どもへの依存が過ぎてしまう時。周囲の共に育てようとする空気や協力が得られないで、どう育てたら良いのか手助けが得られない時など。子どもを育てる環境が整わないまま、今を迎えているという厳しい現実と難しい状況の中で、子ども達が「愛されて育つ」為に何が必要なのでしょうか。

子ども達は、「ねえ、先生見てて」と言って鉄棒や、うんてい、縄跳びに挑戦します。「見てて」を求める子ども達は、私達にまなざしを求めています。「見守ってて」「こっちを見て」「私をみてて」あなたのまなざしの中に入れていてという願いです。それは、子ども達にとって、水分を取ると同じくらい、大切な事なのです。まなざしの中に私がいる。その事が、子ども達の未来の希望の根っこになります。そして、子ども達は「見てた？」と問いかけます。「うん、見ていたよ」そのうなずきが、子ども達の安心感を育てます。うなずきとまなざしの中で子ども達は愛されていると感じて育つのです。

幼稚園の中で、神様に愛されている。保育者にまなざしを向けられている。そのまなざしの中に私が映っている。そして、「うん」とうなずかされている。どれだけ保育者や保護者のまなざしの中に入れられているか。周囲の人の温かなまなざしの中で、子ども達は「愛されて育つ」事を実感します。私達は、一人ひとりの子ども達をお預かりして、一人ひとりの子ども達をまなざしの中に入れ、うなずき、保育を進めて行きたいと願っています。「あなたがたは神に愛されている子どもです。」そういう私達も神様のまなざしの中に入れられ、愛され心を掛けて頂いている事を覚えて、新年度の新しい一歩をご一緒に踏み出して参りましょう。

年間主題によって、元住吉こぼと幼稚園の「ねがい」を3つ設定しました。

- ① 一人ひとりを大切にする。
- ② ありのままを受け止めて関わる。
- ③ 子ども達にまなざしを向け、うなずく。

